

インタビュー調査結果概要

貧困研究会 第31回定例研究会

2018年11月25日(日)

明治大学経営学部 小関隆志

調査目的・方法

・ リサーチ・クエスチョン

- 日本における**金融排除の実態**はどうなっているのか。
- 生活困窮者が、自らの不安定な収入や限られた資産を管理し生活を守るうえで、**金融サービスが貢献**できているのか。
- **金融サービスは生活困窮者支援のためにいかなる役割**を果たし得るのか。

金融的要因による生活困窮
・
生活困窮が惹起した金融排除



金融サービスの
果たし得る役割
(金融包摂)

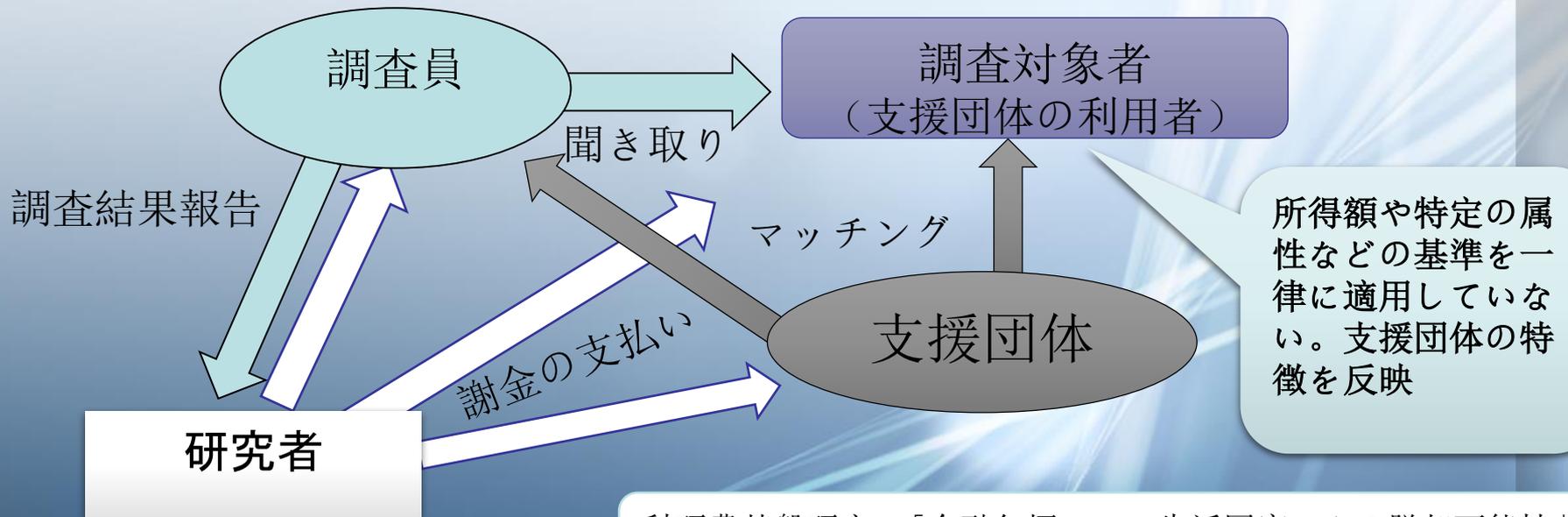
調査目的・方法

- ・ ファイナンシャル・ダイアリー調査とインタビュー調査
 - ファイナンシャル・ダイアリー調査は少数の対象者に長く深く
 - **インタビュー調査は多数の対象者に短く浅く**(低負担で)
 - 両調査が相互補完することをねらいとした

	インタビュー調査	ファイナンシャル・ダイアリー調査
対象者1人あたり	1回(90分間)	隔週52回・1年間
対象者数	57世帯	14世帯
収集する情報	インタビュー(半構造化) (調査員が質問し、既定の調査票に回答を記入する方式)	インタビュー(非構造化) 家計収支、資産・負債のデータ
実施時期・地域	2017年7月～8月(京都) 2017年8月～10月(東京・千葉) 2018年7月～8月(愛知)	2016年10月～2018年11月(東京・千葉・大阪)

調査目的・方法

- ・ 研究者、調査員、支援団体、調査対象者の関係
 - 社会福祉士・FPの有資格者に調査員募集
 - 支援団体が、趣旨に合致する対象者を探し、調査員とマッチング
 - 調査員が対象者宅にて聞き取りし、結果を研究者に報告

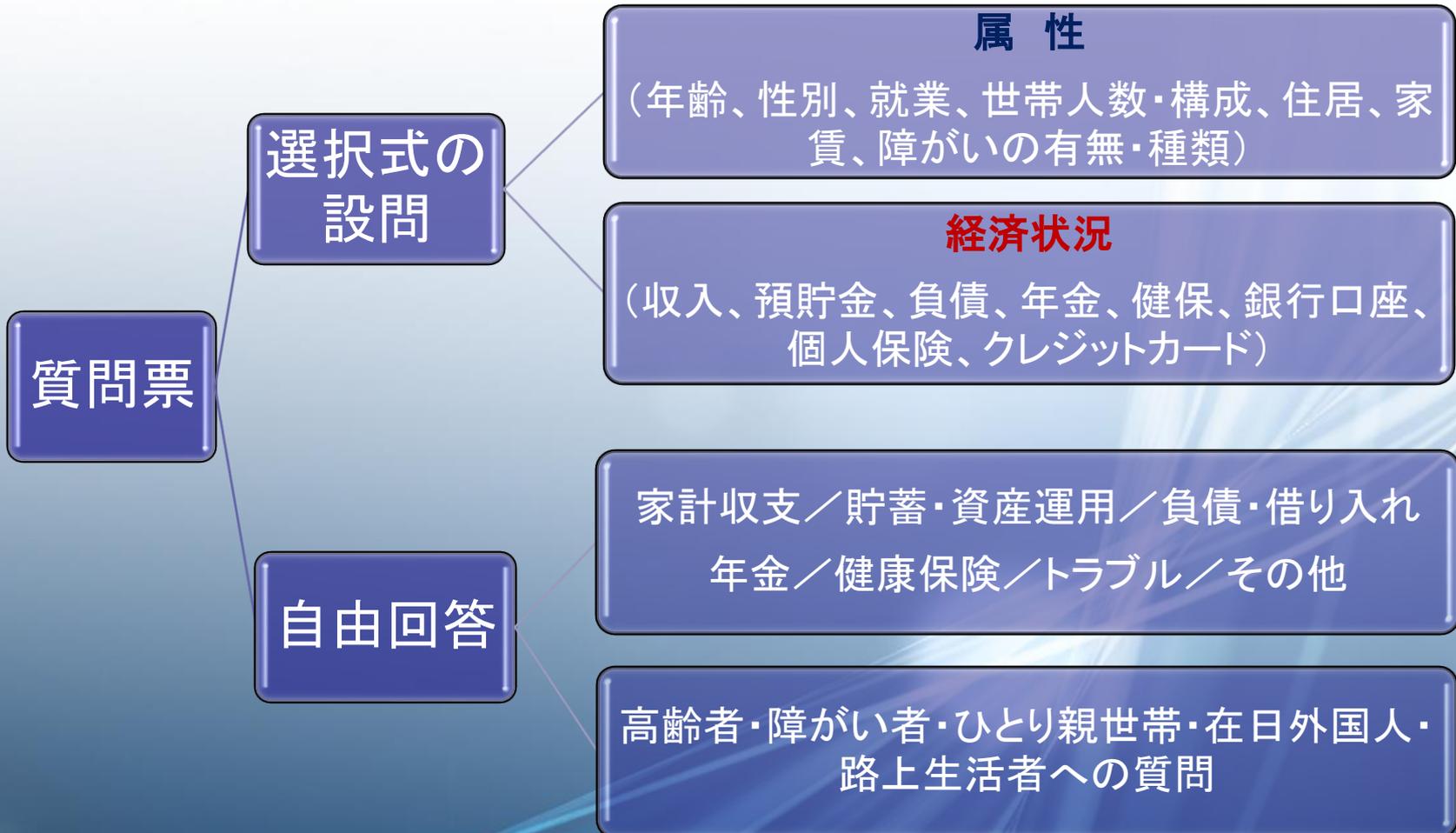


科研費基盤研究C「金融包摂による生活困窮からの脱却可能性」
佛教大学「人を対象とする研究計画等審査」を受審し承認

支援団体

地域	支援団体名	主な支援対象者
東京・千葉	生活サポート基金	多重債務者、生活困窮者
	品川生活と健康を守る会	高齢者
	自立生活サポートセンター・もやい	生活困窮者、路上生活者等
	VAICコミュニティケア研究所	多重債務者、生活困窮者
	KALAKASAN	在日外国人
	全国女性シェルターネット	DV被害者
	社会的包摂支援センター	生活困窮者
京都	京都ソーシャルサービス協会	路上生活者
	母子生活支援施設ヴィエンテ	施設居住の母子世帯
愛知	愛知県司法書士会／かきつばたの会	多重債務者

質問票の構造



家計収支に関する設問

【選択式の設問】

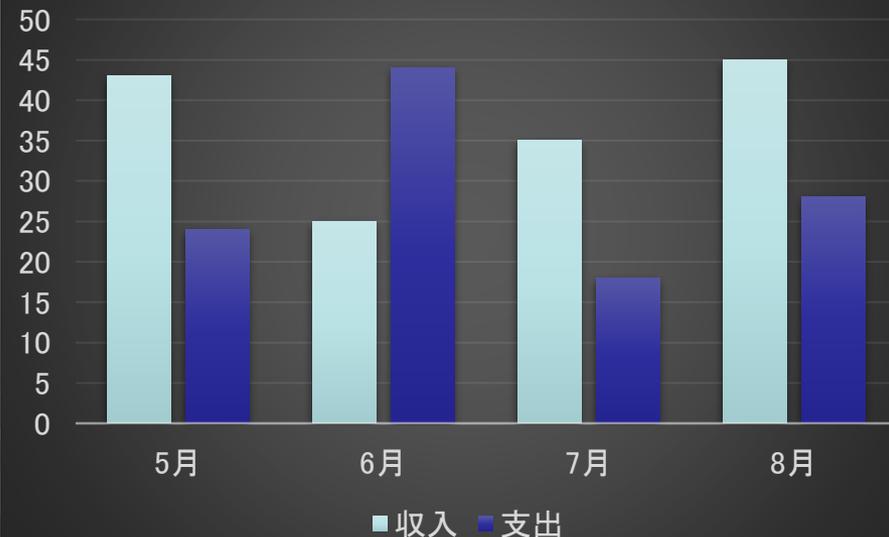
- 月収(本人・世帯全体)
- 家賃

- ・ 何らかの事情で家計収支が崩れ、回復力が不十分だと生活困窮、多重債務に陥るのではないか？
- ・ 単に収入額が低いというだけでなく、予測不可能な収入額の変動やキャッシュフローの不足が問題ではないか？

【自由回答】

- 収入減や支出増による生活困窮
- 収入額の変動
- 家計収支、生活費の不足
- 生活費が不足した場合の対応
- 家計管理の方法
- 生活が困窮した経緯
- 病気・ケガ・介護による生活困窮

家計収支の変動(イメージ)



貯蓄・資産運用に関する設問

【選択式の設問】

- 銀行口座の保有
- 銀行口座の主な用途
- 預貯金額

【自由回答】

- 定期的・計画的な貯蓄
- 貯蓄性の預貯金
- 将来の目的のための貯蓄
- 自分に合った貯蓄・資産運用の方法、相談相手の存在
- 望ましい貯蓄制度

- ・ 低所得・低資産の人々にとって貯蓄はインシデントに対処するうえで重要なバッファー（借金に依存せずに済む）
- ・ 貧困から脱却する手段、将来のライフイベントへの対応としても資産形成は有用と思われる。
- ・ 低所得・低資産の人々をターゲットにした貯蓄商品の欠如（かつてのマル優）、超低金利の普通・定期預金、財形の限界などで貯蓄のインセンティブが不足
- ・ どのように貯蓄を進めているのか？銀行口座をどのように利用しているのか？

負債・借りに関する設問

・【選択式の設問】

- 負債残高
- 住宅ローン
- クレジットカードの枚数

・【自由回答】

- 利用したことのある借入金の種類
- 借りた条件が厳しかったか
- 公的な貸付制度の認知
- 返済が苦しくなった経験、延滞や債務整理の経験
- 望ましい借りに関する制度
- クレジットカードの審査
- カードのリボ払い、キャッシング等の経験

・銀行からの借りにできず、消費者金融やクレジットカードの**高金利の借りに依存し、返済困難**に陥るのではないかと？

・生活福祉資金などの**公的な貸付制度は認知度が低く、あまり利用されていない**のではないかと？

・ソーシャル・キャピタルが豊かにあれば、**相互扶助に基づく個人的な貸し借り**が多くあるのではないかと？

公的年金・健康保険に関する設問

【選択式の設問】

- 公的年金の種類
- 健康保険の種類
- 個人保険の種類

【自由回答】

- 年金の最低加入期間を満たしているか
- 年金保険料を納付したか
- 年金の隔月受給による家計の不安定化
- 年金についての意見要望
- 医療の受診抑制、医療費が家計圧迫
- 健康保険税を納付したか
- 健康保険についての意見要望

- ・国民年金保険料（第1号被保険者）の納付率は66%（平成29年度）と低い。最低加入期間を満たさないと年金を受け取れず高齢者の貧困につながる。厚生年金より保険料負担が重い。滞納による差し押さえも。
- ・年金受給者の場合、隔月支給なので家計が不安定になりがちで、家計収支が崩れる一因ともいえる。
- ・個人保険を追加する余裕があるのか？

- ・国民健康保険の収納率は約92%（平成28年度）と高いが、滞納世帯（一部滞納を含む）は全世帯の15.3%を占める。
- ・近年は滞納という借金形態が増えている。
- ・医療費が全額自己負担となれば極めて重い。保険適用でも3割自己負担は大きいため受診抑制が生じやすいのではないか？

トラブル経験、その他の設問

・【自由回答】

- 多重債務、債務整理、自己破産
- ヤミ金融、金融関連の詐欺被害
- トラブル解決方法

- 金融機関支店・ATMへのアクセス
- 預金引き出し手数料
- 情報収集の手段

- その他特記事項

- ・多額の負債や詐欺被害などのトラブルを解決するには適切な専門家や制度を利用する必要がある。どのように解決したのか？
- ・金融機関への物理的な距離や、営業時間の限定、消費者の情報アクセスの限界などによる金融排除は起きているのか？

高齢者(65歳以上)への設問

【選択式の設問】

- 年齢
- 就業状況

【自由回答】

- 年金・退職金収入
- 年金担保融資の利用
- 金融機関へのアクセス
- 医療費・介護費・住宅改修費用の負担
- 高齢者から見た望ましい金融サービス

・退職した高齢者の場合、年金や退職金が少ないと貧困に陥る。
・年金担保融資は、自己破産しても免責されないためリスクがある。
・医療費・介護費などの自己負担が重いため利用を抑制したり、あるいは医療費・介護費が家計を圧迫して多額の債務を抱えたりする恐れがあるのではないかと。

障がい者への設問

【選択式の設問】

- 障がいのある世帯員の有無
- 障がいの種類

【自由回答】

- 金融機関へのアクセス・利用
- 自身での資産管理の可能性、成年後見人の利用（発達・知的障がいの場合）
- 障がい者から見た望ましい金融サービス

・身体障がいの場合、**店舗・ATMへのアクセス・利用**が物理的に困難ではないか？

・発達・知的障がいの場合、**成年後見制度の利用**もあり得るが、あまり制度が浸透していないともいわれるので、どの程度利用されているのか？

ひとり親世帯への設問

【選択式の設問】

- 世帯人数
- 世帯構成

【自由回答】

- 母子寡婦福祉資金の利用
- 子どもの教育費の負担
- 児童扶養手当のまとめ支給
- ひとり親から見た望ましい金融サービス

・ひとり親世帯（特にシングルマザー）は貧困に陥りやすいと言われる。特に**子どもの教育費・養育費の負担**が大きいのが、どのように賄っているのか。

・**公的貸付制度（母子寡婦福祉資金）**は認知度が低く、利用が進んでいないのではないのか？

・**児童扶養手当は4か月ごとのまとめ支給のため家計が不安定**になりがちで、多重債務の契機になるともいわれる。どう対処しているのか？

在日難民・移住者への設問

・【自由回答】

- 国籍・滞在資格による排除
- 日本語の語学力による排除
- 同郷のコミュニティ内部における相互扶助
- 祖国への送金、祖国からの送金の方法
- 難民・移住者から見た金融サービスの問題点

- ・ 金融機関は外国語にあまり対応できていないのではないか。
- ・ 同郷のコミュニティ内部でソーシャル・キャピタルが豊かにあれば、日本の金融機関から借りられなくても、**相互扶助によって困難に対応できる**のではないか。コミュニティ内部で個人的に高利貸しをする例も考えられる。
- ・ 日本に出稼ぎに来ている外国人労働者にとって、**安い手数料で祖国に送金（仕送り）**できることが重要。銀行の海外送金は手数料が高すぎるが、日本ではまだフィンテックによる送金が普及していない。どう対処しているのか。

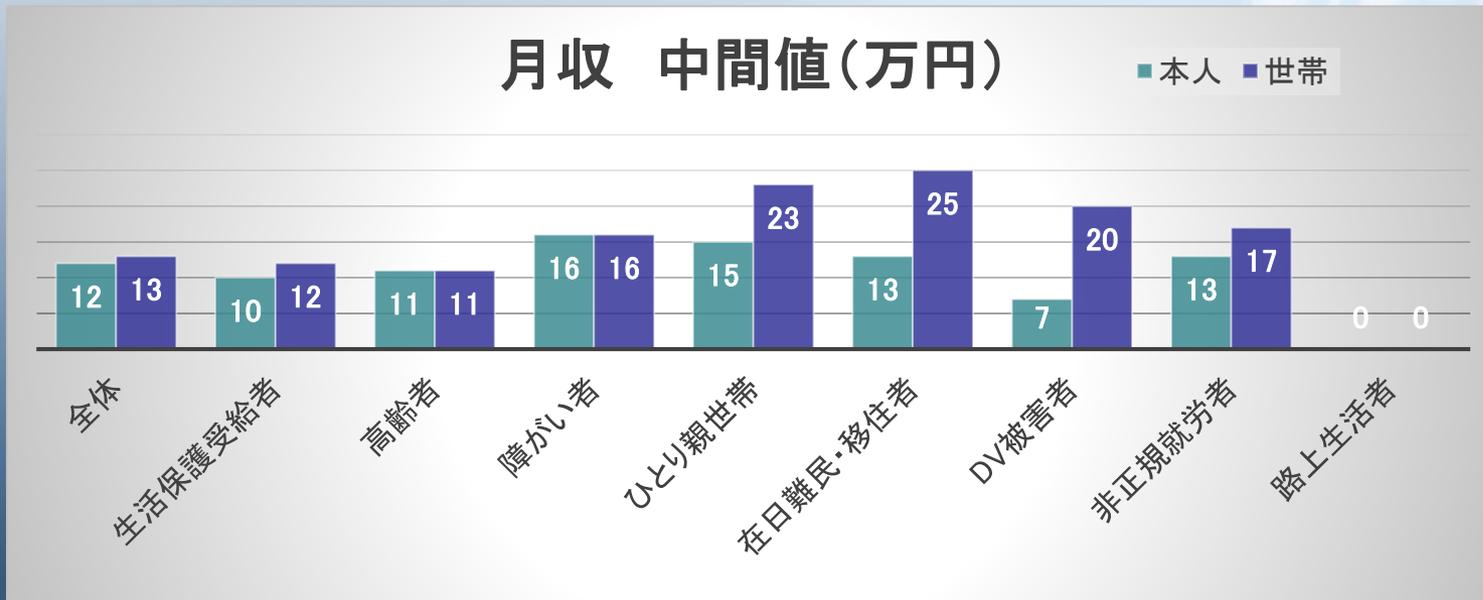
調査対象者の分類

- ・ 属性を9種類に分類。
 - 一人が複数の属性を有する場合もあるため、各属性の合計は回答者数を上回る。
 - DV被害者で、ひとり親世帯で、生活保護受給で、かつ非正規就労者であるという対象者が一定数存在すると、各属性の特徴が相関



家計収支に関する集計結果

- ・ 本人の月収: 平均値13万円、中間値12万円
- ・ 世帯の月収: 平均値17万円、中間値13万円
 - 平成29年調査では年間所得の中央値が442万円。相対的貧困ラインである221万円は月収18.4万円に相当。
 - 単身世帯が65%と、回答者本人が世帯内唯一の稼ぎ主である例が多く、本人と世帯の違いが小さい。外国人は共働きの例が多い。



家計収支に関する集計結果

- ・ 収入減や支出増による家計収支への影響
 - 派遣労働、パート労働など**非正規就労で収入の変動大**
 - 生活保護や年金受給だけであれば基本的に低位安定だが、**就労の収入や年金受給に伴う保護費の削減・返還**
 - 児童扶養手当の**まとめ支給**による増減
 - 入院による出費増や、体調管理のためのエアコンの電気代など
- ・ 日常的な生活費不足への対処
 - 貯蓄の取り崩し、保険の解約
 - **生活費(食費など)の切り詰め**、食料支援の利用
 - 税金・料金の滞納、消費者金融、奨学金の申請
 - 日雇い労働 など

家計収支に関する集計結果

- ・ 生活困窮に至った経緯(例)
 - 派遣労働で雇止めになり、求職活動も成功せず貯金が底をついた
 - 自営業で、親会社の倒産とともに自らも倒産し、路上生活になった
 - 病気になり仕事を辞め、入院して消費者金融から借り、生活保護となった
 - 父親の介護により仕事を辞め、介護費や入院費の出費がかさんで多重債務、自己破産、生活保護となった
 - 交際相手が自分名義の借金を作り、別れた後に借金を抱えて返済に行き詰まり、自己破産、生活保護となった
 - 引きこもりで、親の仕送りで生活していたが、親が死亡した後、親の借金が発覚し、生活が困窮した
 - 日本人夫が働かず、生活保護受給に。夫が生活保護費をパチンコに費消した ……など

全体を通して

- ・ 何らかの事情で家計収支のバランスが崩れ、高金利の借金、税金・料金の滞納で一時的に対処しようとする
- ・ 預貯金が少なく家計のゆとりがないため借金に依存する
- ・ 失業、病気、教育、家庭内の問題解決が「借金」という持続不可能な方法に向かわざるを得なくなっているのではないか？金利の多寡や返済条件よりもセーフティネットの問題か。
- ・ 公的な貸付制度の認知度は低くあまり利用されていない
- ・ そのために多重債務、自己破産・債務整理に至る
- ・ 金融は生活の転落を食い止めるどころか、逆に加速する役割を果たしている
- ・ 生活保護を受給すると、預貯金を制限され、貯蓄による貧困脱却・経済的自立を妨げる作用

全体を通して

